

平成 29 年度文京区障害者地域自立支援協議会 相談支援専門部会検討内容

<実施状況>

- (1) 第 3 回（平成 30 年 1 月 30 日）…東洋大学大学院（志村ゼミ）共催ソーシャルワーク学集会での居住福祉の事例報告及び第 3 回定例会議の報告、文京区の障害者相談支援の今後について～文京区地域福祉保健計画（平成 30 年度～平成 32 年度）より～、文京区相談支援専門部会『今年度のまとめ』及び『次年度に検討したいテーマ』について、文京区指定特相談支援事業所連絡会から今年度の活動報告

<内容総括>

1. 東洋大学大学院（志村ゼミ）共催ソーシャルワーク学集会での居住福祉の事例報告

及び第 3 回定例会議の報告

地域移行の居住場所の一つとしてグループホームというフォーマルな支援がある。しかしフォーマルな支援体制だけでは、ニーズに対する供給が追いついていかない。そこで新たな発想で何か新しい地域の居住場所を確保していかないかというところから、“地域住民も参画できるシェアハウス”というアイデアが生まれた。地域全体での見守りの仕組みだけでなく、障害のある方も、能力を活かせる範囲で“地域を支える一人”として地域になじむことも目指せる。

【委員の意見】

- 障害者が障害者を支援することは可能ではないだろうかと現場で感じることもある。障害者がサービスを受けるだけでなく、自らが人を助ける側に立つことでエンパワメントされたり、充実した生活が送れるのではないか。
- シェアハウスであると、例えば入居者一人にヘルパーがついていると、ヘルパーを必要としていない方への見守りも自然と生まれるのではないだろうか。
- 障害の有無や障害種別に関わらず、シェアハウスのように皆が助け合って住めるような場所が地域の中でできると良いと感じる。

2. 文京区の障害者相談支援の今後について

～文京区地域福祉保健計画（平成 30 年度～平成 32 年度）より～

- ・ サービス更新の機会などに計画相談支援の説明をし、周知を進めている。
- ・ 最近の計画相談支援を希望される方の傾向としては、医療的ケア児や重度心身障害者（児）を現に介護する家族からの要望が多くなっている。
- ・ 知的障害者の方の 70%以上は計画相談を利用している。障害福祉サービスを利用している方については、相談先のつながりを持っている方が多い。
- ・ 相談先につながっていない方に対する相談支援をどのように行っていくかが課題である。
- ・ 精神障害者の方々が地域で安心して生活を送れるような体制づくりを目指している。
- ・ 精神障害者については計画相談支援の利用者数より、セルフプラン作成で対応されている利用者数が多い状況。

【まとめ】

3 年に 1 度の障害福祉計画の策定時期と相談支援専門部会委員の任期満了の年が今年度重なった。自立支援協議会全体としても重要な年であると感じている。今後、障害福祉計画にどのように組み込まれてくるのか注目していきたい。

3. 文京区相談支援専門部会『今年度のまとめ』及び『次年度に検討したいテーマ』について

【感想・意見】

- 各専門部会の中に当事者を委員としてもっと入れてほしい。当事者の声をもっと発信していきたい。
- 相談支援専門部会のテーマは多岐に渡っている。今後は各専門部会が連動していくことや、新たな部会の立ち上げなども考えられるかもしれない。
- 専門部会の構成を考えていくことも大切である。そして各専門部会からの意見を集約していくやり方も次年度の課題である。
- 定例会議と専門部会を連動させていくことは引き続き行っていきたい。定例会議の中での取り組みの一環として、引き続き区内支援者のネットワーク作りを行っていきたい。
- 住まいの課題は多い。次年度も引き続き検討していきたい。

4. 文京区指定特相談支援事業所連絡会から今年度の活動報告

- ・ 連絡会では事業所や行政機関と意見交換を図り計画相談の質の向上を目指している。サービス支給に関することや事務手続き等、意見交換をしながら検討を重ね、毎年計画相談 Q&A 集の改訂を行っている。事例等を掲げながら行政機関と情報共有する場にもなっている。
- ・ セルフプランを選んでいる理由として、計画相談の存在や支援内容を知らないからではないか、ということや依頼できる事業所がなくセルフプランにせざるを得ない状況にあるからではないか等の意見が出た。
- ・ 今後の活動として、精神障害の方を対象に計画相談に関する実態調査アンケートの実施を予定している。アンケートを通して当事者の声を知り、その声を今後の計画相談に活かしていきたいと考えている。

5. その他

今年度より、専門部会開催後に部会委員に事後アンケートを実施。部会委員が多数のため、各委員からの意見が時間の都合上伺えないことが多い為、事後アンケートを実施し、その意見も今後の部会運営に活かしていきたいと考えている。